
遊戯王デュエルモンスターズ 真十二皇将

アーカナイト・マジシャン / バスターを使うC O 2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王デュエルモンスターズ 真十二皇将

【Nコード】

N4199Y

【作者名】

アーカナイト・マジシャンノバスターを使うCO2

【あらすじ】

僕の名前は真田遊香。こんな名前だけど男だ。

GXの世界に転生したんだけど僕の歳は十代達より3個下!?

せっかくデュエルアカデミアに入学したのにー!!

とりあえずアカデミアで出会ったベルクと共に頑張っていこう!

ん?何を?っていつかこれ前にも言った事あるよつな……

これは『遊戯王デュエルモンスターズ The ?? Emperor

or』の再編小説です。

プロローグ 帰路へ（前書き）

あらすじにも書いてある通りこの小説は『遊戯王デュエルモンスターズ The?? Emperor』の再編小説です。
内容が変わってもストーリーはあまり変わりません。

プロローグ 帰路へ

視点：？

「卒業しちゃったな……」

僕は今、船のデッキにいる、大きい船だ。

聞いたところによると、ざっと500人くらい乗れる設計らしい。

僕の名は真田さなだ 遊香ゆうか。

僕は今、孤島に建てられた寄宿制養成学校を卒業して本土行きの船に乗っている。

女みたいな名前だけど僕はれっきとした男だ。

僕の両親は女の子が生まれてくると思って女の子の名前しか考えてなかったらしい。

病院なんかで名前呼ばれたときなんかは「ほんとにあなたが真田遊香さんですか？」なんて目で見られてしまう。カルテには男と書いてあるだろうに。

ちなみに僕には前世の記憶がある。

それもフラッシュバックするなんて曖昧なものじゃなく、鮮明な記憶だ。

僕のその時の名前は何だったか、どんな性格だったか、何歳で死んだのか、なぜ死んだのか、友達は何人いたか、恋人はいたのか、どんな人生だったか……そんなことを事細かにきっちり覚えている。

ちなみに言うと僕が死んだのは高校生の時、入学したてだったかな。

友達は結構いた。

当時は少しオドオドした性格で、友人の話によると容姿も相俟ってかそんな性格にも関わらず僕はなかなかモテたらしい。だけど女の子が苦手だった僕は当然、彼女いない暦〃年齢だった。

高校の入学式の翌日、高校への通学路でどこかの幼稚園の通学バスが目の前に現れた映像を最後に前世の記憶は途切れている。多分、その時に僕は死んだんだろう。

そして僕は今19歳。さつきも言った通り寄宿制デュエリスト養成学校。通称、デュエルアカデミアの卒業生だ。

そう、僕は俗に言う異世界への転生者なのだ。そしてここは“遊戯王デュエルモンスターズGX”の世界だ。気が付いたら赤ん坊となつてこの世界へ来ていた。

まあ、それは良いとしよう、せつかくGXの世界へ来たんだ、存分に原作介入しよう！なんて思っていたんだけど……僕の歳が十代達の年齢から3つ下……つまりは後輩ということが判明したんだ。

十代達に会えなかった……。せつかくデュエルアカデミアに入学できたと思つたのに……ってな感じで現在落ち込み中。つていうかいったい僕は誰と話してるんだ？

『遊香、あなたいったい誰と話しているの？』

「え、あ、いや、なんでもないよ。うん」

『ぶっん……』

でも入学して収穫が無かった訳じゃないんだ。

僕はデュエルアカデミアで、あるモンスターと出会った。

名前はベルク。なんとベルクは十代のパートナー、ユベルの妹だというのだ。

十代達が精霊世界から帰ってくる拍子にユベルに着いて来たが置いて行かれたらしい。

アニメではそんな描写は無かったけど……、もしかしてよく聞く様

なイレギュラーである僕の存在の影響なんだろうか？

ユベルは見た目どおり中性だが、ベルクは完全な女。

精神年齢は16歳くらいかな、確実に僕よりも下だと断言できるね。容姿はユベルの右半分が女で左半分が男なのに対し、ベルクはユベルの完全女性版って感じ。

肌の色は人間の様な肌色でユベルと同じような黒い衣服「？」を着ている。露出度が高いです／＼／＼／＼／＼。髪はユベルと違い黒髪のアートヘア。見事に僕好みである。

『あと何時間で遊香の家なのかしら。楽しみね（ - - ）』

なんか記号で表せそうな表情をしているベルクさん。

別に可愛いなんて思っていないからね？うん。大丈夫大丈夫、煩惱退散煩惱退散。

あと、アカデミアでは友達もできたね。でも上級生が多かったかも。何よりメインキャラである早乙女レイやティラノ剣山等とも親交を深められた。僕から声を掛けたんだけど、前世だと女の子に声を掛けるなんて想像もできない。

特に早乙女レイとは年齢が大して変わり無いこともあり、意気投合できた。

まあ殆どがデュエルや十代や十代とか、十代だったり十代等についての話ばかりだったけどね。

『遊香、着いたみたいよ。』

「ん、港に着いたの？ふあああゝ」

『おはよう遊香。』

「デッキで眠ってしまったのか…暖かいからなあ…。ともかく港に降りよう。」

『ええ』

第一話 二つの光（前書き）

「The ?? Emperor」よりもだいぶオリカが少なくなりました。

これは喜ばしい事かもしれませんが。今のところモンスター2体ですよ！

いや、まあホントは一枚も無い方が良いでしょうけど……

ともかく久々に投稿できました！

今回は挿絵も2枚あります！

あ、でも1枚目はイラストじゃありませんので悪しからずお願いします。

第一話 二つの光

視点：遊香

「見つけたぞすあなああああああああ！！！！！！！！！！」

「ん？」

『遊香、あなたを呼んでいるみたいよ。』

「うわ…あいつ…」

「ふん、やっと追いついたぞスアナダ。」

「僕はスアナダじゃない、真田だ。」

「うっせえよ黙れ。成り上がり如きがエリートの俺様に口答えしてんじゃねえ。」

「実力を付けてレッドやイエローから昇進するってシステムの学校だったはずだけど？」

「てんめえ…！調子に乗りやがってえ！」

「……………はああ…。」

彼の名は井島正一。いしましようちち

僕の在校中、何かに付けては僕に突っかかって来た自称エリートである。

僕は高等部からの入学だが彼は中等部からの入学で、僕がアカデミアに入学した時、彼はオベリスク・ブルーだった。ちなみに僕は入学時、イエローだったよ。

まあ、原作で言えば彼は初期の万丈目みたいなものである。

「聞いてんのかスアナダ！てめえ、俺様を無視するとはいい度胸だなあ！ええ！？」

もしかしたら万丈目より酷いか？ブルーを名乗ってる割には頭悪いし。
万丈目だって初期の頃でも決闘デュエルのルールは分かってたし。
まあ、彼もカード捨てたりはしてたけど。

「チツ…何処までも俺をコケにしゃがって…ハン！ちょうどいい！
今日こそはてめえと決着を付けてやる！」
「はあ…」

仕方ない、引き受けよう。
こうなったら彼は誰の話も聞かず、何処までも付いて来て一方的に喋りっ放し。
端的に言うとうざいのである。

「デュエルウ！」「デュエル…」

「先行は頂きだア！俺のターン、ドロォオ！
俺はマンジユゴッドを召喚するぜエ！
そしてこいつが召喚か反転召喚した時、儀式モンスターか儀式魔法を手札に加えるぜエ！」

『マンジユ・ゴッド』

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻1400 / 守1000

効果

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、自分のデッキから儀式モンスターまたは儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

「……………」

「俺はジャベリンビートルの契約を手札に加えるぜエ！そしてその

「ママはつどお！」

『ジャベリンビートルの契約けいやく』
儀式魔法

「ジャベリンビートル」の降臨に必要。

場か手札から、星の数が合計8個以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

「……………」

「ふははははは！驚きで声も出ねえようだなア！」

「どうしよう、帰りたい。」

このデュエル楽しくないよ、こいつすげえ弱い。何も進歩してねえよ、流石の自称エリートだわ。

ねえ、帰って良いよね？サレンダーしちやおつかな…、もうやだ…。

「いくぜえ！」

手札のフェンリルとプチモス2体とはにわを生け贄にジャベリンビートルを召喚だぜエ！」

ププツwwwwwwプチモスwwwwww

何でフェンリル？wwwい、いつたいどんなシナジーが！？www

「おいてめえスアナダ！何笑ってやがるウ！！！」

「あ、え？ああ、あはは、何でもないよ」

「もう許さねえ！バトルだ！ジャベリンビートルでダイレクトアタックウー！！！」

「……………はha？」

え、な、何言ってるの？ダイレクトアタック??

「あ、あれ、何だ、反応しねエ！こんな時に調整ミスかよー！」

「……い、いや、先行ターンはバトルフェイズ無理だから。」

「ま、マジかよー！」

「いや、デュエリストにとっては当然の知識だから。」

「……………た…ターンエンドだ…」

井島LP4000

モンスター：マンジュ・ゴッド/攻1400

ジャベリンビートル/攻2450

魔法・罫：無し

手札：1枚

「えつと……僕のターン、ドロー。」

ら、ライトニング・ボルテックスを発動、相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊する。」

「お、俺のジャベリンビートルが……」

う、うわ、何か申し訳なくなってくる…。

で、でも一応これは決闘^{デュエル}、勝負事だ。ひ、非情にならなきゃ。

「えつと、て、手札抹殺を発動、お互いに手札を捨てて、捨てた枚数ドロー。」

そして光の援軍を発動、デッキの上からカードを3枚墓地に送ってライトロードと名のついたモンスター1体を手札に加える。」

「俺のジャベリンビートルが俺のジャベリンビートルが俺のジャベリンビートルが俺のジャベリンビートルが俺のジャベリンビートルが俺のジャベリンビートルが……」

僕にどうしろってんだよ……。

「…………ソラー・エクステンジを発動。
手札からライトロードと名のついたモンスター1枚を捨てて、デッキから2枚カードをドロー、その後デッキの一番上からカードを2枚墓地へ送る…………。」

……墓地にはライトロードと名のついたモンスターが4種類以上存在するので手札からジャッシュメント・ドラグーン裁きの龍を特殊召喚。ライトロード・ウォリアー ガロスを召喚。」

『ソラー・エクステンジ』

通常魔法

手札から「ライトロード」と名のついたモンスターカード1枚を捨てて発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後デッキの上からカードを2枚墓地に送る。

ジャッシュメント・ドラグーン
『裁きの龍』

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2600
効果

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に「ライトロード」と名のついたモンスターが4種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。

1000ライフポイントを払う事で、このカード以外のフィールド上に存在するカードを全て破壊する。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを4枚墓地へ送る。

『ライトロード・ウォリアー ガロス』

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1850 / 守1300

効果

自分フィールド上に表側表示で存在する「ライトロード・ウォリアー ガロス」以外の

「ライトロード」と名のついたモンスターの効果によって

自分のデッキからカードが墓地に送られる度に、

自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。

このカードの効果で墓地に送られた「ライトロード」と名のついたモンスター1体につき、

自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「ジャベリンビートルジャベリンビートルジャベリンビートル…」

もうつるさいよ！何なんだよチクショウ！

「ああもう、バトルフェイズッ！

ジャッジメント・ドリンカーン
裁きの龍とライトロード・ウォリアー ガロスでダイレクトアタックッー！！」

「ジャベリンビートルジャベリンビートルジャベリンビートル…」

井島LP4000 1000 - 850

「……………」

「あ、あの、井島君？」

「……………んだよ…」

「そろそろ学園に戻ったほうが良いんじゃないかな？」

実を言うと井島はアカデミアを卒業できていない。

さっきの決闘デュエルを見れば分かるが、彼はあまりにも成績が悪く、理解力に乏しい。

それで1年ほど留年しているのである。

何せ、先行1ターン目にバトルフェイズが行えないという事さえ知らない…いや、覚えられていないのだから。

まあ、卒業に必要な単位が少し足りないだけなので、数ヶ月で卒業は出来るのだと思うのだが。

っていつか受験どうやって受かったんだ彼は…

「そうだな…、次の船で島に戻るとするか……………」

うわ、相当落ち込んでるよ…。少しやりすぎただろうか…。いや、そんな事は無いはず。

でも前に僕が彼に勝った後、彼の寮室のルームメイトに聞いたところ、二週間ほど落ち込みっぱなしだったと聞いたし…。

まあともかく帰るとしよう。

井島と別れ僕は港を出る。ここから駅まで徒歩、電車に乗って家まで向かう。

僕の家は十階建てのマンションだ。

家は母子家庭。父は僕が幼い頃（多分、幼稚園児くらいじゃないかな）に死んでしまった。

父のことは詳しく覚えていない。前世のことは覚えてるのはよく分からないものだ。

「ねえ、君」

「はい？」

駅までの道のりを辿っていると突然、少女から声を掛けられた。

彼女はフードをかぶっており、素顔は分からない。

「君は、デュエルアカデミアの卒業生だね？」

「え…そ、そうですか…」

何でそんなことが分かったんだらう？

僕は今、私服を着ている。アカデミアの制服ではない。船で見かけたとか…？井島に聞いたわけ無いしね……。彼女はフードを下ろし僕に近づく。

「なら、僕と決闘^{デュエル}してよ」

「あ…でも…。僕、友達と待ち合わせして…」

「もう…少しくらい良いじゃない、デュエルしてよ」

うう…僕は押されると弱い…。

それに男としては女の子にお願いされては受けないわけにはいかないし。

はああ。へたれだなあ、僕。

「……………そうですね、分かりました……………受けます」

視点：ベルク

「「デュエル！」」

こんにちわ、初めまして(?)。ベルクよ。

遊香が女の子の勢いに押されて決闘^{デュエル}を受けてしまったわ。

まあ、遊香は頼まれると弱いし、女の子からの頼みだとすると余計にね。

それはともかく…相手の女の子がさつき、こっちを見ていたような
……

「じゃあ、僕からの先行です。ドロー！
……モンスターをセット、カードを2枚セットしてターンエンドで
す。」

遊香LP4000

モンスター：セットモンスター1体

魔法・罫：伏せ2枚

手札：3枚

遊香にとって定石な戦術。

まずはロックカードを伏せたり、カウンター罫トラップを伏せたりして相手
の様子を伺う…。

ただ、遊香の癖で、どうしてもカードをバランスよく配置しようと
してしまう。

それはデッキ構築に関しても同じ。

だから相手のカードが自分の手数を超過してしまうと途端に調子を崩
してしまうのよね。

それでもデッキのバランスは良いわけだからそれで何とか保ってる
って感じ。

「僕のターンだよ、ドロー。」

僕は、暗黒界の狂王 ブロンを攻撃表示で召喚してバトルフェイズ
に移行するよ。

ブロンでセットモンスターに攻撃ッ」

『暗黒界の狂王 ブロン』

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1800 / 守400

効果

このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、自分の手札を1枚選択して捨てる事ができる。

「破壊されたRAI-MEIの効果発動です。

このモンスターが戦闘によって破壊された時、デッキからレベル2以下の光属性モンスターを手札に加える事ができます。僕はデッキからシキクリボーを手札に加えます。」

『RAI-MEI』

星3 / 光属性 / 雷族 / 攻1400 / 守1200

効果

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキからレベル2以下の光属性モンスター1体を手札に加える事ができる。

「……僕はカードを2枚セットしてターンエンドだよ。」

少女LP4000

モンスター：暗黒界の狂王 ブロン / 攻1800

魔法・罫：伏せ2枚

手札：3枚

あの女の子は【暗黒界】かしら。

暗黒界と言えば悪魔族シリーズの筆頭として有名よね。

遊香の転生前の話聞けば、遊香が死んでしまった数週間後に新しい暗黒界のカードを収録したデッキが発売予定だったらしいわ。

それにしても遊香の世界ではデッキなんて売ってるのね。

私たち精霊がカードを手に入れようとする場合、自分自身の精霊としての能力を用いてカードを生成する。

だから私たち精霊は皆、自分と同属性、同種族、もしくは同系統のカードばかりを使う事になる。

…少し考え込んでしまったわね。

遊香「ライトニング・ハーモナイザーを召喚します。そしてこのカードが召喚に成功した場合、

このターン1度だけ手札から光属性チューナーを通常召喚する事ができます。

この効果を使用した場合、ライトニング・ハーモナイザーはこのターンにはシンクロ素材にする事ができません。

僕は効果を使用し、手札から ヴァイロン・テトラを特殊召喚します。」

『ライトニング・ハーモナイザー』

星4 / 光属性 / 雷族 / 攻1300 / 守850

チューナー

このカードが召喚に成功した場合、手札から光属性のチューナー1体を特殊召喚する事ができる。

この効果を使用した場合、次の自分ターンまで、自分はシンクロ召喚をする事ができない。

『ヴァイロン・ステラ』

星3 / 光属性 / 天使族 / 攻1400 / 守200

チューナー

このカードがモンスターカードゾーン上から墓地へ送られた場合、500ライフポイントを払う事で、このカードを装備カード扱いとして自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体に装備する。

このカードの装備モンスターと戦闘を行った相手モンスターを、そのダメージステップ終了時に破壊する。

「更にシキクリボーを特殊召喚します。このカードは自分フィールド上にチューナーのみが存在する場合に特殊召喚できます。」

『シキクリボー』

星1 / 光属性 / 天使族 / 攻300 / 守200

チューナー

このターン中に通常召喚を行っており、自分フィールド上のモンスターがチューナーのみの場合、このカードを手札から特殊召喚することができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のモンスターを攻撃対象に選択する事はできない。

「フフ、チューナーモンスターか……」

「ふう……カードを1枚セットしてターンエンドです。」

遊香LP4000

モンスター：ライトニング・ハーモナイザー / 攻1300

ヴァイロン・ステラ / 守200

シキクリボー / 守200

魔法・罫：伏せ3枚

手札：1枚

チューナーモンスター。

遊香のフィールドには3体のチューナーが並んでいるわね。

シンクロ召喚と呼ばれる新しい召喚方法に必要なカードたち。

遊香の話だとこの世界の未来のカードシリーズだそうね。

シンクロ召喚とはチューナーモンスターとそうじゃないモンスターを1体以上か複数以上、同時に墓地に送ることで融合デッキ

遊香の世界ではエクストラデッキと呼ばれているらしい から

特殊召喚する…というもの。

遊香の相手の女の子の様子からして、あの女の子はチューナーやシンクロモンスターの事を知っているのかしら？

「僕のターン、ドロー」

伏せカードの暗黒界の謀略を発動だよ。お互いに手札を2枚選んで捨てて、カードを2枚ドローするよ。

君は手札を1枚捨ててこのカードの効果は無効にできるけどどうする？」

「無効にはしません。」

「じゃあ手札を2枚捨てて、2枚ドローして。」

『暗黒の謀略』

通常罫

お互いのプレイヤーは手札を2枚選択して捨て、デッキからカードを2枚ドローする。

相手は手札を1枚捨ててこのカードの効果は無効にする事ができる。

女の子の指示を受けてデッキと手札のカードを交換する遊香。

暗黒界の特徴は効果によって捨てられる事で特殊召喚されたり、ドロー、相手フィールドの破壊など、手札破壊に強かったり逆に手札破壊と組み合わせやすかったり、墓地にカードが溜まりやすいシリーズだね。

姉兄ちゃんあにえい（ユベルの事）の事もあって、私は精霊世界でも悪魔族たちと何度か交流がある。

私も本質的には淫魔見たいなものだしね。

「手札から捨てられた事で暗黒界の軍神 シルバの効果が発動するよ。」

カードの効果によって手札から捨てられた時、このカードを特殊召

喚するよ。」

『暗黒界の軍神 シルバ』

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400
効果

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手は手札を2枚選択して好きな順番でデッキの下に戻す。

「暗黒界の術師 スノウを召喚して、バトルフェイズに移行するよ。」

「それなら立ちはだかる強敵を発動します。」

ヴァイロン・ステラを選択、相手は選択したモンスターしか攻撃できず、全てのモンスターで攻撃しなければなりません。」

「ん〜、ならブロンでヴァイロン・ステラを攻撃するよ。」

遊香はヴァイロン・ステラを狙わせているみたい。

けどやっぱり遊香の悪い癖パート2が発生してるわね、目的を達成するためにカードを使い過ぎる。

この勝負は危ないかもしれない。

「この戦闘によりヴァイロン・ステラは破壊されますが、僕はヴァイロン・ステラの効果を発動します。」

500ライフポイントを払う事で破壊された自身を、装備カード扱いで他のモンスターに装備できます。

チェーンするカードはありますか？」

遊香LP4000 3500

「ん、大丈夫だよ。」

「では僕はヴァイロン・ステラの効果にチェーンし、威嚇する咆哮を発動します。」

このターンは今後、攻撃宣言を行えません。

そしてヴァイロン・ステラの効果処理を続行、ライティング・ハーモナイザーに装備します。」

『威嚇する咆哮』

通常罫

このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

遊香のフィールドに残ったのはシキクリボート、ヴァイロン・ステラを装備したライティング・ハーモナイザー。

だけど遊香は自分でこの状況を導いた。いったい何を狙ってるのかしら……

「さて、僕はカードを1枚伏せてターンエンドだよ。」

少女LP4000

モンスター：暗黒界の狂王 ブロン/攻1800

暗黒界の軍神 シルバ/攻2300

暗黒界の術師 スノウ/攻1700

魔法・罫：伏せ2枚

手札：2枚

「僕のターン。ドローです。」

フォトン・ケルベロスを召喚します、発動するカードはありますか？」

「うん、ないよ。」

「ではフォトン・ケルベロスの効果が発動します、このカードが召

喚に成功したターンには、このカードが表側表示で存在する限りお互いに罠カードは発動できません。」

『フォトン・ケルベロス』

星3 / 光属性 / 獣族 / 攻1300 / 守600

このカードが召喚に成功したターン、このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いに罠カードを発動する事はできない。

遊香の言うこの世界では、行動を制限するカードや相手の戦術を崩すような、手札破壊カードやデッキを破壊するためのカード、デッキなどが嫌われる傾向にあるわ。

有名どころで言えば、サイコシヨッカーと言われる機械族モンスター等ね。

でも遊香は批判されようと敢えてそういうカードを使う。そういうカードを使った方が遊香自身の性に合うらしいわ。

「永続魔法、ヴァイロン・エレメントを発動します。えっと…」

「大丈夫、チエーンはしないよ。」

「わかりました。では続いて伏せていた速攻魔法、ダブル・サイクロンを発動します。」

自分と相手の魔法・罠を1枚ずつ破壊します。

装備カードとなったヴァイロン・ステラと藍沙さんのフィールドの中央の伏せカードを破壊します。」

『ヴァイロン・エレメント』

永続魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「ヴァイロン」と名のついた装備カードが破壊された時、破壊された数と同じ数まで自分のデッキから「ヴァイロン」と名のついたチューナーを自分フィールド

上に特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターをシンクロ素材とする場合、「ヴァイロン」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

『ダブル・サイクロン』

速攻魔法

自分フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚と、相手フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して発動する。
選択したカードを破壊する。

遊香の宣言に反応し、相手の女の子フィールドにある裏向きのカードがオープンする。

現れたのは暗黒界に続く結界通路だった。

恐らく墓地に暗黒界がいなかったのね、暗黒界に続く結界通路は速攻魔法だから、チェーン発動できたはずだし。

それにしても遊香の手札が0になってしまったわ、それに対して彼女の手札も伏せカードも1枚ずつ。

遊香の狙っている事がもし妨害されたら遊香は負けてしまうわね。負けて問題があるとは思えないけど…

「そして、装備カード扱いだったヴァイロン・ステラが破壊された事でヴァイロン・エレメントの効果が発動します。

「ヴァイロン」と名のついた装備カード…それは装備カード扱いのヴァイロンも含まれます。

それらが破壊された時、デッキから「ヴァイロン」と名のついたチューナーを特殊召喚します。

ヴァイロン・テトラを特殊召喚！」

『ヴァイロン・テトラ』

星2 / 光属性 / 機械族 / 攻900 / 守900
チューナー

このカードがモンスターカードゾーン上から墓地へ送られた場合、500ライフポイントを払う事で、このカードを装備カード扱いとして自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体に装備する。

このカードの装備モンスターが破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する事ができる。

「ん〜… ようやくシンクロするのかな？」

「はい、ようやく出来ます。」

レベル3のフォトン・ケルベロスにレベル4のライトニング・ハイモナイザーをチューニング！

天より舞い降りし無機質な天使！今、三位一体となりて邪を滅せよ！」

3 + 4 = 7

「シンクロ召喚！天へ導け、ヴァイロン・デルタ！！」

『ヴァイロン・デルタ』

星7 / 光属性 / 天使族 / 攻1700 / 守2800

シンクロ・効果

チューナー+チューナー以外の光属性モンスター1体以上

このカードが表側守備表示で存在する場合、自分のエンドフェイズ時に自分のデッキから装備魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。

ふむふむ、こういう事だったのね。

けど余った2体のチューナーはどうするつもりなのかしら？

シンクロ召喚というのは、チューナー同士では出来ない。

チューナー以外のモンスターと、“チューナー1体のみ”で行う物
……あつ。

「ヴァイロン・デルタ…か。でもそれだけかな？」

「まだいきます！レベル7のヴァイロン・デルタに、レベル1のシ
キクリボーとレベル2のヴァイロン・テトラをダブルチューニング！
ヴァイロンを統べし大いなる王よ、漆黒の翼を以て終わりなき争い
に裁きを下せ！」

7+1+2=10

「シンクロ召喚！振り落とせ、ヴァイロン・オメガアー！」

『ヴァイロン・オメガ』

星10 / 光属性

> i 3 6 8 7 7 — 4 2 1 7 <

天使族 / 攻3200 / 守1900

効果

チューナー2体+チューナー以外の「ヴァイロン」と名のついたモ
ンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に表側表示
で存在する通常召喚されたモンスターを全て破壊する。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する「ヴァイロン」と名のつい
たモンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装
備する事ができる。

効果モンスターの効果が発動した時、このカードに装備された装備
カード1枚を墓地へ送る事でその発動を無効にし破壊する。

「また重いモンスターを出したね〜」。

ダブルチューニングのシンクロモンスターか…。」

「あはは、苦労しました……。」

すっかり忘れていたわ。

私は遊香にシンクロの事を教えてもらったけど、その時にダブルチューニングの事も教わった。

ダブルチューニング。

通常、シンクロモンスターにはチューナー1体のみをお使用するけど、例外的に2体のモンスターを使用する事がある。それがダブルチューニング。

遊香はそのモンスターを1種類しか持っていないらしいわ。それがあのモンスターという事ね。

「ふう…。ヴァイロン・テトラが墓地へ送られた時、500ライフポイントを払う事で自分フィールド上のモンスターに装備できます。ヴァイロン・オメガを選択!」

遊香LP3500 3000

「また、それにチェインしてヴァイロン・オメガの効果が発動されます。」

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に存在する通常召喚したモンスターを全て破壊します!」

「…あーあ…、ブロンとスノウが破壊されちゃった…」

「うぐ…え、えっと、ヴァイロン・テトラはヴァイロン・オメガに装備されます。」

続いて、ヴァイロン・オメガの2番目の効果を発動します。

1ターンに1度、ヴァイロン・オメガに墓地の「ヴァイロン」と名のついたモンスターを選択して装備カード扱いで装備する事ができます。ヴァイロン・スフィアを装備。」

いきなり怒涛のコンボが繰り出されたわね。

ヴァイロン・オメガが召喚されていよいよ調子が出だしたみたい。

「ここでヴァイロン・スフィアの効果を発動します。

装備カード状態のこのカードを墓地へ送る事で、墓地に存在する装備魔法カードをヴァイロン・スフィアを装備していたモンスターに装備できます。」

「……うん……ヴァイロン・スフィアも今から回収するカードも多分、暗黒界の策略で墓地に捨てたカードだよね……？」

「はい、その通りです。」

「あちゃ〜……」

あらあら……。

相手の女の子、少し失敗してしまったみたいね。

ああいう、お互いに手札を交換するカードとかは、案外に気を付けないといけないカードよね。

一見、五分五分の状況に見えて、実は使った方が1枚分カードを消費してしまっているから……。

「つ、続けますね？」

「うん……」

「えつと、ヴァイロン・スフィアの効果により、墓地から巨大化を装備します。」

「え、きよだ……!?? (—— ————)」

「う……きよ、巨大化を装備したヴァイロン・オメガは自分のライフが相手より少ないので二倍となり攻撃力は6400となりますッ
!……」

遊香、何か自棄になってるわね。

相手が落ち込んでると何か自棄気味になっちゃうのよね。
まあでも、申し訳なくなるけど勝負事は非情にならないと相手に失礼だからなあ。

って遊香は言ってるわ。

「バトルフェイズですッ！」

ヴァイロン・オメガで暗黒界の軍神 シルバを攻撃！輝きの重撃！

「ぐ！くっつ！！」

少女LP4000 - 100

視点：遊香

「ありやりや、負けちゃったね。君、強いなあ……」

「……あ、あの僕は真田遊香っています。真田幸村の真田に、遊ぶ香りと書いて真田遊香です。お名前を伺ってよろしいですか？」

「あーごめんごめん、名乗ってなかったね。私は笹木藍沙だよ。笹木に藍色の1億分の1の沙しゃと書いて笹木藍沙。よろしくね！」

> i 3 6 9 7 5 — 4 2 1 7 <

う、ま、まぶしい……何だこの魅惑的な微笑みは！吞まれてしまう！

「ん、どしたの？」

「あ、い、いえいえ！何でもありませんよっ！？」

「フフ、そっかそっか。」

じゃあ、遊香君急いでるみたいだしまたね。時間取らせてごめんね

「？」

「あ、いえ、そんな…。僕も楽しかったですから。」

「それは良かったよ。」

それから、「またね！」と言って笹木藍沙さんは去ってしまいました。

よく考えたら、この世界で出会った初めての学校以外の友達かもしれないなあ…。

ともかく帰るとしよう。

『ねえ遊香、もしかしたらあの娘、私の事覚えてたのかも…』

「え…？藍沙さんにもカードの精霊が見えたって言うのか？」

『ええ…。気のせいかもしれないけど、最初に私のことを見ていたよ。』

「……………」

もしかして、ベルクが見えたから僕に話し掛けてきたのか…？

精霊ベルクを連れている僕と決闘デュエルをして……

でもベルクも気のせいかもしれないと言ってるし…、今は心の隅に留めておこう……………。

第一話 二つの光（後書き）

懐かしいですねプチモスとはにわ。

ジャベリンビートルも懐かしいです。

皆さんはどうかは分かりませんがフェンリルも僕の中では懐かしい中に入ります。

井島君のデッキはジャベリンビートル軸の昆虫族を作っていつの間にかフェンリルとかが紛れてたみたいな設定です。

プチモスとか入ってますので繭、グレートモス、完全体グレートモス等も入ってます。

一度は召喚してみたいなあ。とか考えてますね井島くん。

ところで1万文字超えるのってやっぱり駄目なんでしょうか…。

何か1万文字超えた時に落ち込んでる作者様がいますから、気になつたんですが…

皆さんどう思います…？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4199y/>

遊戯王デュエルモンスターズ 真十二皇将

2011年12月11日12時50分発行